

## 片肺症状 フロートレベル低下

右のシリンダーが不調で片肺症状を起こしていると電話がありました。

燃料タンク内で結露して水分などが底に溜まり、予備タンクにした途端に不調になることが多いのでキャブ・フロートを外して、水分などが溜まっていれば廃棄するようアドバイスしました。

一旦は調子よくなったそうですが再発するとの事で点検にみえました。

右のフロートカップを外すと燃料がほとんど残っていないので燃料切れによる片肺と判りました。

燃料はたっぷりあるし、左は調子よく稼動しています。またオーナー自ら調整する方ではないので不思議です。フロートレベル調整用のタンクも正常に見えます。フロートピンを叩き出し、フロートバルブを点検しても天使の輪がありますが今回の件では無関係です。

ふとバルブを見ると何かが違います。正常品と比較して違いが判りました。



上: 正常品 / 下: 故障品 (判りやすくするため引っ張り出してある)

当該キャブのバルブにはフロートレベルを一定にし、バルブの寿命を延ばすためダンパーが組込まれていますがカシメが緩みダンパー部分が飛び出ています。バルブが長くなったのと同じでフロートレベルは低下して燃料吐出が減り片肺状態になったものです。時としてダンパーが正規位置に戻るため症状が出たり、出なかったり日和見状態だったようです。

バルブを交換したところ症状は改善して気持ちのよい排気音を残してお帰りにになりました。

\*\*\*\*\*

Spezialist fur EDEL BOXER in Chiba seit 1997

HOME PAGE = <http://www013.upp.so-net.ne.jp/CRIMECA/index.htm>